

平成20年3月期 第3四半期財務・業績の概況

平成20年2月8日

上場会社名 株式会社 第一興商 上場取引所 JASDAQ
 コード番号 7458 URL <http://www.dkkaraoke.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 和田 康孝
 常務取締役兼
 問合せ先責任者 (役職名) 上席執行役員 (氏名) 畑 英爾 TEL (03)3280-2151
 管理本部長

(百万円未満切捨て)

1. 平成20年3月期第3四半期の連結業績 (平成19年4月1日 ~ 平成19年12月31日)

(1) 連結経営成績 (%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
20年3月期第3四半期	96,627	1.3	13,084	24.3	13,003	20.0	5,010	△18.7
19年3月期第3四半期	95,402	△4.0	10,528	17.2	10,839	17.7	6,163	102.6
19年3月期	124,654	—	13,189	—	12,937	—	4,801	—

	1株当たり四半期(当期)純利益		潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益	
	円	銭	円	銭
20年3月期第3四半期	71	99	—	—
19年3月期第3四半期	88	55	—	—
19年3月期	68	99	—	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産	
	百万円	百万円	%	円	銭
20年3月期第3四半期	125,895	70,773	55.4	1,002	91
19年3月期第3四半期	135,459	70,039	51.1	994	78
19年3月期	130,931	68,788	51.9	975	44

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
20年3月期第3四半期	16,922	△14,791	△8,201	25,860
19年3月期第3四半期	23,806	△15,509	△3,791	28,770
19年3月期	32,509	△18,059	△6,792	31,918

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金	
	第3四半期末	
	円	銭
19年3月期第3四半期	—	—
20年3月期第3四半期	—	—

3. 平成20年3月期の連結業績予想（平成19年4月1日～平成20年3月31日）

(%表示は対前期増減率)

通期	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
	126,300	1.3	14,800	12.2	14,600	12.8	4,600	△4.2	66	09

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動） : 無
 (2) 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有
 (3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 有

(注) 詳細は、6ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(参考) 四半期個別経営成績等の概況（平成19年4月1日～平成19年12月31日）

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期（当期）純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
20年3月期第3四半期	66,417	1.8	8,352	25.7	9,314	23.1	3,542	△15.5
19年3月期第3四半期	65,246	△5.1	6,643	18.4	7,567	27.8	4,191	81.8
19年3月期	83,382	—	7,888	—	8,317	—	2,310	—

	総資産		純資産	
	百万円	百万円	百万円	百万円
20年3月期第3四半期	77,917	52,619		
19年3月期第3四半期	83,678	54,076		
19年3月期	80,200	52,189		

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、発表日現在のデータに基づき作成したものであり、予想につきましては様々な不確定要素が内在しておりますので、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合があります。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期までのわが国経済は、堅調な企業収益を背景に緩やかながら拡大基調で推移する一方、原油高のほか米国のサブプライムローン問題の影響から、先行きについては不透明感が残る状況となってきました。

当カラオケ業界におきましては、クラブ・スナックなどのナイト市場では依然厳しい状況が続いているものの、カラオケボックスなどのデイ市場では集客が回復し、収益が改善するなど明るい兆しがみえてきております。

この様ななか、当社グループは新商品「プレミアムDAM（DAM-XG1000）」を発売し、商品の販売及び賃貸の拡大に注力するとともに、業務用ネットワークのブロードバンド化を進めてまいりました。また、カラオケルームと飲食店の多店舗・複合型展開を進め収益の向上に努めるなど、各事業へ積極的に取り組み、業容の拡大と収益の増大を目指してまいりました。

以上の結果、当第3四半期までの売上高は、カラオケ・飲食店舗事業が増収となるほか、業務用カラオケ事業についても堅調に推移したことから96,627百万円（前年同期比1.3%増）となりました。また利益面におきましても、主要事業すべてにおいて増益となったことから、営業利益は13,084百万円（同24.3%増）、経常利益は13,003百万円（同20.0%増）となりました。一方、中間期において有価証券の評価損などの特別損失の計上に伴い、四半期純利益は5,010百万円（同18.7%減）となりました。

事業の種類別セグメントの状況は、以下の通りであります。

なお、当期より事業の種類別セグメントを下記のとおり変更し、各セグメント別の前年同期比較につきましては、前期の実績を変更後の区分に組み替えて行っております。

i 従前の「ゲートウェイ事業」に含めておりましたDSサービスを「業務用カラオケ事業」に含めて表示することといたしました。

ii 従前の「ゲートウェイ事業」に含めておりました携帯電話向けコンテンツサービスを「その他の事業」に含めて表示することといたしました。

（業務用カラオケ事業）

当事業におきましては、当期よりDSサービスの事業区分を変更し、DAMの差別化とカラオケ事業の付加価値の向上を目指してまいりました。また新商品「プレミアムDAM（DAM-XG1000）」を発売するとともに、当社グループが展開するカラオケルーム「ビッグエコー」への導入を積極的に進めるほか、エンドユーザーに向けた全国的なPR活動を行うなど「DAM」ブランドの訴求とカラオケ参加者の増加に努めてまいりました。この結果、新商品は市場から高い評価を得るとともに、大手カラオケボックス事業者からの引き合いなども活発になってきております。

当第3四半期までの商品売上高につきましては新商品の発売とPR活動の効果から前年同期より増加し、また情報提供料収入につきましても新機種を中心に単価が上昇していることから増加いたしました。一方、機器賃貸収入につきましては旧機種の賃貸単価が依然として低下傾向にあることから減少し、DSサービスにおいても事業区分の見直しに伴い売上高は減少いたしました。

以上の結果、当事業の売上高は前年同期と比べ横ばいで推移したものの、商品の売上原価率の大幅な低減とDSサービスの損失改善により営業利益は前年同期比33.3%増と大幅な増加となりました。

（百万円）

	前第3四半期	当第3四半期	対前期増減	増減率
売上高	51,429	51,174	△255	△0.5%
営業利益	7,004	9,338	2,333	33.3%

	単位	前第3四半期	当第3四半期	対前期増減	増減率
DAM出荷台数	千台	26	23	△3	△11.5%
機器賃貸契約件数・12月末	千件	56	56	0	0.0%
DAM稼働台数・12月末	千台	212	217	5	2.4%
（うちブロードバンド稼働台数）	千台	(79)	(89)	(10)	12.7%
DAMステーション稼働台数・12月末	千台	18	19	1	5.6%
club DAM MEMBERSHIP 会員数	千人	1,500	1,987	487	32.5%

（カラオケ・飲食店舗事業）

当事業におきましては、積極的な多店舗・複合型展開を進めており、当第3四半期までにカラオケルーム「ビッグエコー」19店舗の新規出店と4店舗を閉店するほか、飲食店舗におきましても新業態を含む12店舗の新規出店と2店舗を閉店いたしました。この結果、当第3四半期末現在でビッグエコーが226店舗（国内221・海外5）、飲食店は13ブランドの68店舗（国内68）が稼働しております。このうち、ビッグエコーに飲食店舗を併設する複合型店舗は、ビッグエコー24店舗において飲食8ブランド・32店舗が稼働しております。

また当社グループにおきましては、既存店売上高が改善するほか多店舗・複合型店舗展開によって業容が着実に拡大してきておりますが、これをさらに後押しするべく、11月よりカラオケルーム「ビッグエコー」のテレビCM・雑誌広告・店頭プロモーションを本格的に展開するなど集客力の向上やブランド認知に努めてまいりました。

以上の結果、当事業の売上高は前年同期比7.5%増加となり、また原価率の低減や店舗の複合化による収益の向上により出店コストのほか広告宣伝費を吸収し、営業利益は前年同期比6.3%増加となりました。

（百万円）

	前第3四半期	当第3四半期	対前期増減	増減率
売上高	26,819	28,834	2,015	7.5%
営業利益	3,867	4,110	243	6.3%

	単位	前第3四半期	前期末	当第3四半期	当期増減	当期増減率
ビッグエコー店舗数	店	211	206	221	15	7.3%
（うち複合店舗数）	店	(19)	(19)	(24)	(5)	26.3%
〃 ルーム数	ルーム	6,259	6,146	6,510	364	5.9%
飲食店舗数	店	60	58	68	10	17.2%
〃 座席数	席	6,911	6,702	8,250	1,548	23.1%

（注）上記数値には海外店舗を含んでおりません。

（音楽ソフト事業）

当事業におきましては、音楽CD市場が厳しい状況で推移しておりますが、レコード子会社である日本クラウン㈱の「北島 三郎」や、㈱徳間ジャパンコミュニケーションズの「リュ・シウォン」をはじめとする主力アーティストの商品販売のほか、映像ソフト「ゲド戦記」が健闘いたしました。また、音楽配信市場が拡大するなか、レコード子会社がもつ旧譜の音楽配信による着実な収益への貢献もありました。

以上の結果、当事業の売上高は前年同期比4.3%減少となりましたが、経営の効率化を図り営業コストが減少したことにより営業利益は前年同期に比べ約5.6倍と大幅な増加となりました。

（百万円）

	前第3四半期	当第3四半期	対前期増減	増減率
売上高	8,833	8,453	△379	△4.3%
営業利益	74	416	341	455.6%

当期間における主力アーティスト・映像ソフト

会社名	アーティスト名・映像ソフト名
日本クラウン㈱	北島三郎 Gackt Metis アグネス・チャン
㈱徳間ジャパンコミュニケーションズ	リュ・シウォン 水森 かおり THE BLUE HEARTS Perfume ゲド戦記

（その他の事業）

当事業におきましては、「スカイパーフェクTV！」をプラットフォームとする衛星放送事業や携帯電話向けコンテンツサービスのほか、不動産賃貸事業を含むその他の事業を行っております。

衛星放送事業におきましては、加入者数は減少傾向にありますが、コストコントロールの継続によって安定した収益を確保しております。携帯電話向けサービスにおきましては、「着信メロディー」の加入者数が減少する一方、「着うた®」「着うたフル®」（注）はサービス内容を強化・充実したことに伴い着実に伸長してきております。また、当事業におきましてもコストコントロールによって安定収益を確保しております。不動産賃貸などその他の事業におきましては堅調に推移いたしました。

以上の結果、当事業の売上高は前年同期比1.9%減少となり、また前期に開始した新規事業の営業費用が増加したことから営業利益は前年同期比5.6%減少となりました。

（注）「着うた®」「着うたフル®」は、株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメントの登録商標です。

（百万円）

	前第3四半期	当第3四半期	対前期増減	増減率
売 上 高	8,320	8,165	△155	△1.9%
営 業 利 益	1,526	1,440	△85	△5.6%

2. 連結財政状態に関する定性的情報

(1) 資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期末における総資産は、前連結会計年度末に比べ5,035百万円減少し、125,895百万円となりました。

増減の主なものとしては、流動資産では、現金及び預金が6,069百万円減少し、受取手形及び売掛金が934百万円増加しております。

固定資産では、土地が3,045百万円増加し、カラオケルーム及び飲食店舗設備が1,520百万円増加し、投資有価証券が4,218百万円減少しております。

負債の部につきましては、前連結会計年度末に比べ7,021百万円減少し、55,121百万円となりました。

増減の主なものとしては、流動負債では、短期借入金が4,469百万円減少し、支払手形及び買掛金が899百万円増加しております。

固定負債では、長期借入金が2,322百万円減少し、役員退職慰労引当金が568百万円減少しております。

純資産の部につきましては、前連結会計年度末に比べ1,985百万円増加し、70,773百万円となりました。

これは主に、当第3四半期純利益による利益剰余金の増加5,010百万円、剰余金の配当1,391百万円、その他有価証券評価差額金の減少1,726百万円によるものであります。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期末における現金及び現金同等物（以下資金という。）は、前連結会計年度末に比べ6,058百万円減少し、25,860百万円となりました。

当第3四半期における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、税金等調整前四半期純利益が10,165百万円、減価償却実施額が10,384百万円、投資有価証券評価損が1,899百万円及び法人税等の支払額が5,106百万円等により、前第3四半期に比べ6,884百万円減少し、16,922百万円となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、有形固定資産の取得による支出が11,006百万円、無形固定資産の取得による支出が3,206百万円等により、前第3四半期に比べ718百万円減少し、14,791百万円となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、長期借入金の返済による支出が9,952百万円、長期借入による収入が6,050百万円及び短期借入金の純増減額の支出が2,898百万円等により、前第3四半期に比べ4,410百万円増加し、8,201百万円となりました。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

通期の業績予想につきましては、業界環境の厳しい「音楽ソフト事業」において売上高の未達が予想されるものの、「業務用カラオケ事業」及び「カラオケ・飲食店舗事業」が堅調に推移していることから前回（平成19年11月12日）公表の売上高、営業利益及び経常利益をそれぞれ増額いたします。

一方、最近の株式市況が軟調ななか株価変動による損益への影響も不透明であることから、当期純利益につきましては前回公表通りといたします。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 会計処理の方法における簡便な方法の採用

法人税等の計上につきましては見積実効税率をベースとした計算を行っております。

(3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更

（減価償却方法の変更）

法人税法の改正に伴い、平成19年4月1日以降に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

また、平成19年3月31日以前に取得した有形固定資産のうち償却可能限度額までの償却が終了しているものについては、残存簿価を5年間で均等償却しております。

なお、これに伴う営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

5.（要約）四半期連結財務諸表

(1)（要約）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

科 目	前第3四半期 (平成18年12月31日)		当第3四半期 (平成19年12月31日)		増減		前連結会計年度 (平成19年3月31日)	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率	金額	構成比
(資産の部)		%		%		%		%
流動資産								
現金及び預金	29,247		26,335		△2,911	△10.0	32,404	
受取手形及び売掛金	11,179		10,528		△651	△5.8	9,593	
たな卸資産	5,840		5,172		△667	△11.4	5,093	
繰延税金資産	1,343		1,488		145	10.8	1,294	
その他	5,635		4,720		△914	△16.2	4,569	
貸倒引当金	△1,180		△492		688	△58.3	△745	
流動資産合計	52,064	38.4	47,753	37.9	△4,311	△8.3	52,210	39.9
固定資産								
有形固定資産								
建物及び構築物	6,040		5,949		△91	△1.5	6,122	
カラオケ賃貸機器	9,642		8,653		△988	△10.3	8,949	
カラオケルーム及び飲食店 舗設備	13,668		14,164		496	3.6	12,644	
土地	14,544		17,317		2,772	19.1	14,272	
建設仮勘定	228		9		△218	△95.6	235	
その他	3,728		1,903		△1,825	△49.0	2,094	
有形固定資産合計	47,852	35.3	47,998	38.1	146	0.3	44,318	33.9
無形固定資産								
その他	7,184		5,994		△1,190	△16.6	6,074	
無形固定資産合計	7,184	5.3	5,994	4.8	△1,190	△16.6	6,074	4.6
投資その他の資産								
投資有価証券	10,028		5,602		△4,425	△44.1	9,820	
長期貸付金	1,316		916		△400	△30.4	1,220	
繰延税金資産	2,373		2,703		329	13.9	2,624	
差入敷金・保証金	12,977		13,305		327	2.5	13,151	
その他	3,681		3,431		△250	△6.8	3,432	
貸倒引当金	△2,020		△1,809		210	△10.4	△1,923	
投資その他の資産合計	28,356	21.0	24,148	19.2	△4,208	△14.8	28,327	21.6
固定資産合計	83,394	61.6	78,141	62.1	△5,252	△6.3	78,720	60.1
資産合計	135,459	100.0	125,895	100.0	△9,563	△7.1	130,931	100.0

(単位：百万円)

科 目	前第 3 四半期 (平成18年12月31日)		当第 3 四半期 (平成19年12月31日)		増減		前連結会計年度 (平成19年3月31日)	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率	金額	構成比
(負債の部)		%		%		%		%
流動負債								
支払手形及び買掛金	6,591		5,546		△1,044	△15.9	4,646	
短期借入金	18,169		12,693		△5,476	△30.1	17,162	
未払金	5,971		6,409		437	7.3	6,959	
未払法人税等	2,795		3,517		722	25.9	3,386	
賞与引当金	764		856		91	12.0	1,074	
割賦販売未実現利益	293		278		△15	△5.1	267	
その他	3,607		3,450		△156	△4.3	3,446	
流動負債合計	38,192	28.2	32,752	26.0	△5,440	△14.2	36,943	28.2
固定負債								
長期借入金	20,330		15,981		△4,349	△21.4	18,304	
繰延税金負債	216		150		△66	△30.5	150	
退職給付引当金	2,652		2,735		82	3.1	2,660	
役員退職慰勞引当金	2,351		1,869		△482	△20.5	2,437	
負ののれん	458		353		△105	△23.0	409	
その他	1,216		1,279		63	5.2	1,235	
固定負債合計	27,226	20.1	22,369	17.8	△4,857	△17.8	25,198	19.3
負債合計	65,419	48.3	55,121	43.8	△10,297	△15.7	62,142	47.5
(純資産の部)								
株主資本								
資本金	12,350	9.1	12,350	9.8	—	—	12,350	9.4
資本剰余金	24,003	17.7	24,003	19.1	—	—	24,003	18.3
利益剰余金	37,033	27.3	39,290	31.2	2,256	6.1	35,671	27.2
自己株式	△3,641	△2.6	△3,641	△2.9	△0	0.0	△3,641	△2.7
株主資本合計	69,745	51.5	72,002	57.2	2,256	3.2	68,384	52.2
評価・換算差額等								
その他有価証券評価差額金	131	0.1	△1,603	△1.3	△1,734	△1,321.6	123	0.1
土地再評価差額金	△845	△0.6	△845	△0.7	—	—	△845	△0.6
為替換算調整勘定	205	0.1	248	0.2	43	20.9	229	0.2
評価・換算差額等合計	△509	△0.4	△2,200	△1.8	△1,691	332.2	△493	△0.3
少数株主持分	803	0.6	971	0.8	168	20.9	897	0.6
純資産合計	70,039	51.7	70,773	56.2	733	1.1	68,788	52.5
負債純資産合計	135,459	100.0	125,895	100.0	△9,563	△7.1	130,931	100.0

(2) (要約) 四半期連結損益計算書

(単位: 百万円)

科 目	前第3四半期 (自平成18年4月1日 至平成18年12月31日)		当第3四半期 (自平成19年4月1日 至平成19年12月31日)		増減		前連結会計年度 (自平成18年4月1日 至平成19年3月31日)		
	金額	百分比	金額	百分比	金額	増減率	金額	百分比	
売上高	95,402	100.0	96,627	100.0	1,225	1.3	124,654	100.0	
売上原価	57,273	60.0	54,755	56.7	△2,517	△4.4	74,824	60.0	
割賦損益調整前売上 総利益	38,129	40.0	41,872	43.3	3,742	9.8	49,829	40.0	
割賦販売未実現利益 戻入(+)	92		35				126		
割賦販売未実現利益 繰延(-)	11	80	46	△10	△0.0	△91	△113.0	19	106
売上総利益	38,210	40.0	41,862	43.3	3,651	9.6	49,935	40.1	
販売費及び一般管理費	27,682	29.0	28,777	29.8	1,095	4.0	36,745	29.5	
営業利益	10,528	11.0	13,084	13.5	2,556	24.3	13,189	10.6	
営業外収益									
受取利息・配当金	291		280				387		
負ののれん償却額	161		56				210		
その他	967	1,420	880	1,217	1.3	△203	△14.3	1,182	1,781
営業外費用									
支払利息	361		317				475		
たな卸資産評価損	400		328				854		
その他	347	1,109	651	1,297	1.3	188	16.9	702	2,033
経常利益	10,839	11.4	13,003	13.5	2,164	20.0	12,937	10.4	
特別利益									
固定資産売却益	36		41				199		
貸倒引当金戻入益	97		156				186		
役員退職慰労引当金 戻入益	2		41				2		
賃貸借解約補償金	—		85				249		
その他	0	137	—	324	0.3	187	136.3	218	857
特別損失									
固定資産処分損	586		289				1,420		
減損損失	38		55				2,850		
投資有価証券評価損	5		1,899				180		
関連事業整理損	—		234				—		
不正事件関連損失	—	630	685	3,163	3.3	2,532	401.6	—	4,451
税金等調整前四半期 (当期)純利益	10,346	10.8	10,165	10.5	△180	△1.8	9,343	7.5	
法人税等	4,137	4.3	5,079	5.2	941	22.8	4,409	3.5	
少数株主利益	45	0.0	75	0.1	29	65.2	132	0.1	
四半期(当期)純利益	6,163	6.5	5,010	5.2	△1,152	△18.7	4,801	3.9	

(3) (要約) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	前第3四半期 (自平成18年4月1日 至平成18年12月31日)	当第3四半期 (自平成19年4月1日 至平成19年12月31日)	前連結会計年度 (自平成18年4月1日 至平成19年3月31日)
	金額	金額	金額
営業活動によるキャッシュ・フロー			
税金等調整前四半期(当期)純利益	10,346	10,165	9,343
減価償却費	11,570	10,384	15,633
減損損失	38	55	2,850
負ののれん償却額	△161	△56	△210
賞与引当金の増減額	△279	△217	29
役員退職慰労引当金の増減額	198	△568	284
固定資産処分損益	550	247	1,220
投資有価証券評価損	5	1,899	180
売上債権の増減額	903	△952	2,489
たな卸資産の増減額	1,843	△79	2,589
カラオケ賃貸機器の売上原価振替	691	538	738
仕入債務の増減額	1,331	899	△612
その他	△959	△247	279
小計	26,077	22,067	34,816
法人税等の支払額	△2,176	△5,106	△2,192
その他	△94	△38	△114
営業活動によるキャッシュ・フロー	23,806	16,922	32,509
投資活動によるキャッシュ・フロー			
定期性預金の預入による支出	△113	△187	△190
定期性預金の払戻による収入	147	198	214
有形固定資産の取得による支出	△8,858	△11,006	△10,442
無形固定資産の取得による支出	△3,038	△3,206	△4,076
映像使用許諾権の取得による支出	△869	△1,027	△1,206
投資有価証券の取得による支出	△3,209	△200	△3,249
その他	433	637	891
投資活動によるキャッシュ・フロー	△15,509	△14,791	△18,059
財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入金の純増減額	△1,288	△2,898	△1,667
長期借入による収入	10,203	6,050	10,776
長期借入金の返済による支出	△11,651	△9,952	△14,848
配当金の支払額	△1,043	△1,389	△1,043
その他	△10	△10	△10
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,791	△8,201	△6,792
現金及び現金同等物に係る換算差額	42	12	38
現金及び現金同等物の増減額	4,547	△6,058	7,695
現金及び現金同等物の期首残高	24,222	31,918	24,222
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	28,770	25,860	31,918

(4) セグメント情報

① 事業の種類別セグメント情報

前第3四半期（平成18年4月1日～平成18年12月31日）

（単位：百万円）

項目	業務用カラオケ事業	カラオケ・飲食店舗事業	音楽ソフト事業	その他の事業	計	消去又は全社	連結
売上高及び営業損益							
売上高							
外部顧客に対する売上高	51,429	26,819	8,833	8,320	95,402	—	95,402
セグメント間の内部売上高又は振替高	171	—	135	558	864	(864)	—
計	51,600	26,819	8,968	8,879	96,267	(864)	95,402
営業費用	44,595	22,951	8,893	7,352	83,793	1,080	84,874
営業利益	7,004	3,867	74	1,526	12,473	(1,945)	10,528

当第3四半期（平成19年4月1日～平成19年12月31日）

（単位：百万円）

項目	業務用カラオケ事業	カラオケ・飲食店舗事業	音楽ソフト事業	その他の事業	計	消去又は全社	連結
売上高及び営業損益							
売上高							
外部顧客に対する売上高	51,174	28,834	8,453	8,165	96,627	—	96,627
セグメント間の内部売上高又は振替高	188	—	129	598	916	(916)	—
計	51,363	28,834	8,582	8,763	97,544	(916)	96,627
営業費用	42,024	24,723	8,166	7,323	82,238	1,305	83,543
営業利益	9,338	4,110	416	1,440	15,305	(2,221)	13,084

前連結会計年度（平成18年4月1日～平成19年3月31日）

（単位：百万円）

項目	業務用カラオケ事業	カラオケ・飲食店舗事業	音楽ソフト事業	その他の事業	計	消去又は全社	連結
売上高及び営業損益							
売上高							
外部顧客に対する売上高	65,957	35,681	11,982	11,032	124,654	—	124,654
セグメント間の内部売上高又は振替高	228	—	178	750	1,158	(1,158)	—
計	66,186	35,681	12,161	11,783	125,812	(1,158)	124,654
営業費用	57,632	30,576	12,010	9,811	110,030	1,433	111,464
営業利益	8,554	5,105	150	1,971	15,781	(2,591)	13,189

1. 事業区分の方法

売上集計区分によっております。

2. 各区分に属する主要な商品又は役務の名称

事業区分	主要商品又は役務の名称
業務用カラオケ事業	業務用カラオケ機器の販売、賃貸及び通信カラオケへの音源・映像コンテンツの提供並びに専用情報端末(DAMステーション)によるコンテンツサービスの提供
カラオケ・飲食店舗事業	カラオケルームの運営及び飲食店舗の運営
音楽ソフト事業	音楽、映像ソフトの制作、販売
その他の事業	衛星放送事業、携帯電話によるコンテンツサービスの提供、不動産賃貸事業 ほか

3. 事業の種類別セグメントにおける事業区分の変更

次のとおりセグメント区分の見直しを行っております。

前連結会計年度までゲートウェイ事業に含めておりました、専用情報端末(DAMステーション)によるコンテンツサービスは、主力事業である業務用カラオケ事業における付加価値サービスと位置付け、当事業を業務用カラオケ事業と一体化させて事業展開を図ることとしたため、業務用カラオケ事業に含めることに変更いたしました。

また、上記事業区分の変更に伴い、従来ゲートウェイ事業に含めておりました、eビジネス事業（携帯電話によるコンテンツサービス）は金額的重要性が低下しているため、その他の事業に含めることといたしました。

なお、上記、前第3四半期及び前連結会計年度の事業の種類別セグメント情報は、変更後の事業区分に基づき作成しております。

② 販売の状況

(単位：百万円)

セグメント区分	前第3四半期			当第3四半期			前連結会計年度		
		構成比	前年度比		構成比	前年度比		構成比	前年度比
業務用カラオケ事業		%	%		%	%		%	%
商品販売高	17,543	18.4	80.2	17,635	18.3	100.5	20,888	16.8	79.7
カラオケ機器賃貸収入	14,216	14.9	98.1	13,694	14.2	96.3	18,863	15.1	98.0
情報提供料収入	18,644	19.5	103.1	19,224	19.9	103.1	24,932	20.0	103.0
DSサービス収入	1,026	1.1	119.9	619	0.6	60.4	1,272	1.0	114.0
小計	51,429	53.9	93.0	51,174	53.0	99.5	65,957	52.9	93.2
カラオケ・飲食店舗事業									
カラオケルーム運営事業	21,939	23.0	100.4	23,065	23.9	105.1	29,194	23.4	101.0
飲食店舗事業	4,879	5.1	152.2	5,768	5.9	118.2	6,487	5.2	147.2
小計	26,819	28.1	107.0	28,834	29.8	107.5	35,681	28.6	107.1
音楽ソフト事業	8,833	9.3	81.5	8,453	8.7	95.7	11,982	9.6	84.0
その他の事業	8,320	8.7	101.8	8,165	8.5	98.1	11,032	8.9	100.4
合計	95,402	100.0	96.0	96,627	100.0	101.3	124,654	100.0	96.4

(注) 前第3四半期及び前連結会計年度は、変更後の事業区分に基づき作成しております。